事例No.	1287
公表年度	R1
団体の属性	一般市
団体名	鹿児島県いちき串木野市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・移住定住

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

関係人口とともに作っていく冠嶽芸術文化村

出典

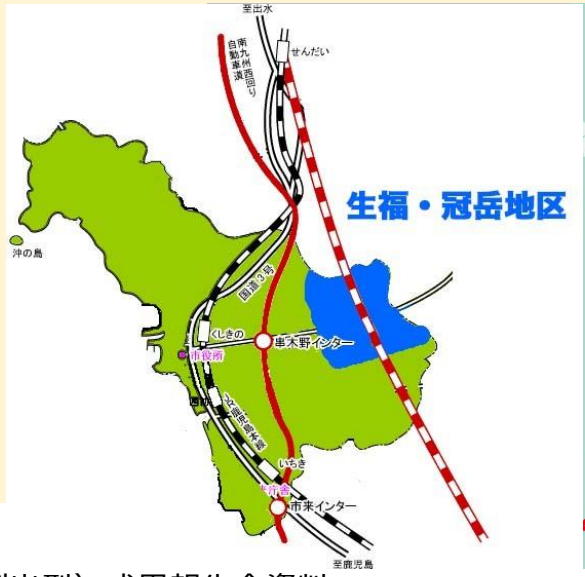
関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

鹿児島県いちき串木野市
（関係創出型）

「関係人口と歩む冠嶽芸術文化村構想推進事業」

１.地域の概要

- 対象となる生福・冠岳地域
- いちき串木野市の東部にある霊峰冠嶽の山麓に位置。人口1667人、冠岳地区は高齢化率48%と市内で一番高齢化が進んでおり存続が危ぶまれる集落もある。
- 山麓をめぐる遊歩道や寺社仏閣といった歴史資源、中国をテーマに整備された庭園「冠嶽園」や公園、薬草栽培といった、他地区にはない特長的な資源を有する。
- アクセスも良く、南九州西回り自動車道串木野インターから10～15分程度の距離にあり、県都鹿児島市からも1時間以内で来られる。





2.事業の背景・課題

●地域の現状・解決したい課題

- 実施地域は霊峰冠嶽山麓の中山間地域である。由緒ある寺社のほか奇岩・甌穴などがあり、紅葉やほたる、また温泉も楽しめる本市の代表的な観光地でもある。しかし、人口減少と高齢化が急速に進んでおり、慢性的なマンパワー不足から、地域のブランディングが疲弊し、地域の中には存続が危ぶまれる集落もある。
- そのため、芸術文化が持つ創造性と地域資源を掛け合わせて新たな価値を作り上げ、地域振興を図る「冠嶽芸術文化村構想」を平成30年度に策定した。地域資源を活用した様々なアクティビティや創作活動が実施されることで、交流人口・移住者・ローカルビジネスを創出し、地域浮揚を図ることとしているが、その構想を実現するための実施主体「創発コミュニティ」の形成が課題となっていた。

●地域課題の解決・改善にあたり、関係人口に期待すること

- 本事業では冠嶽芸術文化村構想の実施主体「創発コミュニティ」を形成することを目的としている。
- 「創発コミュニティ」の構成員に地域住民だけでなく広く外部人材（関係人口）のスキルとマンパワーを取り込みつつ形成していくことで、過疎化が進む地域においても、地域浮揚策の推進体制を維持していく。
- また、外部人材が積極的に地域を評価し、そのことにより地域住民が関係人口を理解し、サポートする好循環が生まれ、地域全体に波及していくことで、関係人口に選ばれる魅力ある地域の創出を目指そうとするものである。

3.事業の全体像

●地域の理想の姿

- 4年後　2020年度末で廃校となる冠岳小学校を拠点に、学校スペースの活用や地域資源のプロダクト化により、地域で稼ぐ力を発揮し、交流人口・関係人口を創出していく。
- 10年後　移住者10世帯を目指す

●事業の目的・ねらい

- 外部人材（関係人口）と地域住民からなる構想の実施主体、「創発コミュニティ『えんたく』（以下「えんたく」と表記）」を形成する。
- また、「えんたく」が、将来的に自走していけるように地域資源を活用したプロダクト化など収益事業の可能性を検討する。
- 関係人口創出のきっかけとして、地域映画づくりトークショーやテストツーリズム、薬膳弁当、地域フリーペーパー発行を企画。

●地域課題解決のプロセス

（2018）冠獄芸術文化村構想策定

↓

（2019）関係人口と地域住民からなる実施主体（中間支援組織）を設立

↓

（2020～）
実施主体を核に地域映画作りと地域資源を活用したプロダクト製作により、コミュニティ強化と稼ぐ力の創出

↓

（2025頃）
ローカルビジネスの発生、地域ブランディングの再生、移住者の発生、集落活動の維持・継続

●本年度の目標

- 関係人口15人以上
- 収入５万円以上
- 「えんたく」の参加者数
  - 地域住民５名以上
  - 地域外住民５名以上
  - 行政職員３名以上
- 地域住民、地域外住民の地域課題等に関する理解度の向上
- 多様なステークホルダー間の関係の構築

４.事業の実施体制とターゲット

●事業の実施体制

- いちき串木野市が全体を管理し、実施主体の「えんたく」が関係人口の創出、テストツーリズムやプロダクト製作など企画運営などを担う
- 「えんたく」創設にあたっては、プラットフォーム設立に実績のある事業者BAGN.incが支援を実施

団体・組織名称	役割・責任
いちき串木野市	国委託事業の進行管理。地域住民組織や市民への周知、広報等。「えんたく」設立支援。
BAGN.inc	「えんたく」の設立支援。外部アドバイザー、企画運営。
メンター （元地域おこし協力隊）	「えんたく」の設立にあたり地域住民との繋ぎ役。「えんたく」の一員として業務を行う。
地域住民	「えんたく」が提案する地域振興企画において、地域資源アドバイザーや各企画における知識をもった人材の紹介、繋ぎ役として機能。

●事業のターゲット層

- 地域映画や地域資源のプロダクト化といった企画に必要となるアイデア、スキルを持つ人
- そうした企画をきっかけに地域に興味を抱いたり、活動してみたいと思う人

ターゲット層	ターゲット設定の理由（地域課題の解決にどうつながるか）
各企画における知識人。またその知識やスキルを地域振興に活かしたいと考える人	日頃の仕事を活かし、副業を行ないたい人を取り込むことで、マンパワー不足の解消とその人自身の自己実現の場所に本エリアを活用してもらう。
地域を離れたものの、地域のために何かしたいと考える人	彼らのスキルを活かせる地域課題の解決方法を検討することで、そもそも地域に関係していたことから深度の深い関係性を築ける。
近隣地域の人々	身近な地域の活動を認知してもらうことで、地域の話題が広く近隣の人によって訴求される。

5.事業の経過

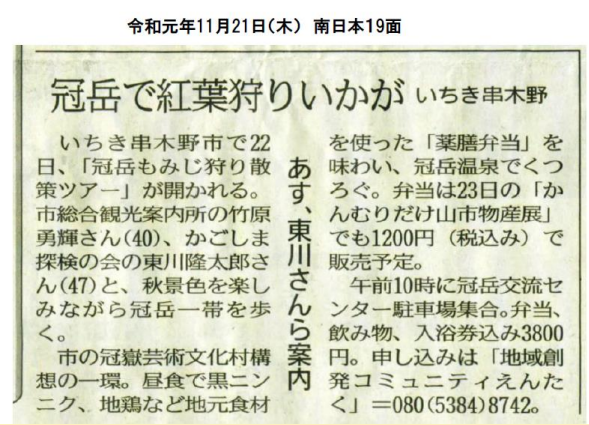
● 事業の経過（主なもののみ）

時期	取組内容	内容	工夫したこと	主な成果	問題となったこと、うまくいかなかったこと	気づき・感想、今後に向けた反省点
9月	9/9（月） 「えんたく」と地域の顔合わせ	活動紹介と今後の取り組みについてのお知らせ。合計８名の参加。	住民の声から発案したプランを組み込み、まずは興味関心をもってもらうことに注力した。	地域にいる人の顔が見えたこと。また今後の活動に話を聞くべき住民を繋げてもらった。	生福地区の関係者が少なかった。	薬草を使った食の提供、もみじ狩り企画に関する反応が大きかったように感じた。
10月	10/9（水） 地域映画製作にトークショー開催	第一回目となるえんたく活動。	質問を投げかける形をとった。	地域映画、映像に興味関心をもってもらえた。	生福地区の参加者が少なかった。	8ミリフィルムの回収の仕方が今後の課題。
	10/15（火） 実施地域への説明	生福地区の公民館への実施事業の説明。	地域に負担が発生しないということを説明。	生福地区でえんたくが活動できる了解が取れた。	特に無し。	負担感が増すことを恐れてか距離をとっているように見えた。
	10/30（水） 薬膳弁当の開発打ち合わせ	中医薬膳指導資格をもった料理研究家と薬膳弁当づくりを検討した。	地域の素材を集めて、おかずメニューを企画。	企画から現物をあげるまでのスピードが早かった。	薬膳弁当の素材は以前地域にあった薬草園にあったものを取り入れた。	地域と親和性のある薬膳をテーマとした展開について、今後広がりを持たせていきたい。
11月	11/22（金） 冠岳散策紅葉狩りツアー実施	冠岳とその周辺を知る機会となる散策ツアーを実施。	地域素材を使った薬膳弁当とリーフレットを準備。	地域にある資源の素晴らしさを再確認。構成のとれたツアー実施だった。	県外の参加者のアプローチ。	左記同様。
	11/23（土） 冠岳山市物産展	伝統的な秋の風物詩「冠岳山市物産展」にえんたくとして初出店。	無理なく地域住民とのコミュニケーションを図ることができる。	1,200円30個のお弁当完売。興味を持ってくれる人多数。	継続が危ういイベント。協力できることがないか考えたいと感じた。	公園の使い方にまだまだ可能性があると感じた。
2月	地域フリーペーパー発行（中旬）	実施地域を特集したフリーペーパー。				

6.主な取組の内容

●ターゲットへのアプローチ

- 県外者　SNSを利用した開催情報告知
- 県内者　市の広報紙、主婦層をターゲットにした鹿児島県フリーペーパー、地方新聞への情報掲載



令和元年11月21日(木)　南日本19面

冠岳で紅葉狩りいかが　いちき串木野

あす、東川さんら案内

いちき串木野市で22日、「冠岳もみじ狩り散策ツアー」が開かれる。市総合観光案内所の竹原勇輝さん(40)、かごしま探検の会の東川隆太郎さん(47)と、秋景色を楽しみながら冠岳一帯を歩く。

市の冠嶽芸術文化村構想の一環。昼食で黒ニンニク、地鶏など地元食材を使った「薬膳弁当」を味わい、冠岳温泉でくつろぐ。弁当は23日の「かんむりだけ山市物産展」でも1200円（税込み）で販売予定。

午前10時に冠岳交流センター駐車場集合。弁当、飲み物、入浴券込み3800円。申し込みは「地域創発コミュニティえんたく」＝080(5384)8742。



Peatixによる告知

●主な活動内容

＜地域映画の作り方＞

- 開催日時：2019年10月９日（水）19:00~20:30　参加費：1,000円
- 参加者数：35名
- 内容：映像作家を招き、映像を交えながら８ミリフィルムの価値と、市民参加の価値についてのトークセッション。対談相手は「えんたく」メンバー。



＜冠岳もみじ狩り散策ツアー＞

- 開催日時：2019年11月22 日(金)　10:00~14:00
- 参加費：3,800円　　参加者数：5名

＜冠岳山市物産展「えんたく」出店＞

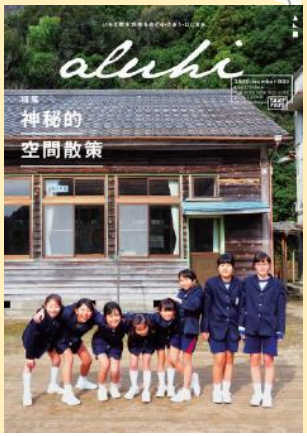
- 開催日時：2019年11月23日（土）
- 内容：地域の恒例行事となっている物産展に「えんたく」として出店。薬膳弁当（30食）を完売。同時に「えんたく」の活動紹介したパネル展示と8mm映像の放映とともに企画PRを実施。





＜フリーペーパ『ALUHI』発行＞

- 発行：2月中旬
- 編集・発行：　えんたく
- 協力者（寄稿者）：写真家、料理研究家、ミュージシャン、花屋、デザイナー、イラストレイター、掲載店舗・生福・冠岳地域住民など
- 内容：いちき串木野市を伝えるフリーマガジン『ALUHI』生福・冠岳エリア特集として発行。



7.事業の成果と課題

●本年度の目標達成状況

- 「えんたく」の形成及び今後の継続的な活動を見据えたテスト企画の実施をとおして関係人口数78名、中間支援組織「えんたく」参加者数13名を確保など、定量的目標は達成した。

●募集に関する成果・課題

- メインターゲット層・・・地域のマンパワー不足を補える若手、地域プロジェクトに興味関心のある人
- 成果・・・「えんたく」の活動を知るために地域の人、隣接する地域の人が大半であった。市外からきた若者や活動に興味を示してくれる若者は今後活動がより具体的になっていくなかで、「えんたく」メンバーの候補にもなりうる（現時点で遠方からわざわざ足を運んで地域に関与しようという行動が伴っていることから）
- 課題・・・告知してから本番までに十分な準備期間が得られず、広報展開の見直しとスケジュールの見直しを適宜図っていきたい。今後施策が具体的になるときにはプロモーションをうまく取り入れてメッセージ性がより伝わるものにしていきたいとも考えている。

●つながりの構築に関する成果・課題

- 成果・・・各活動において興味を示してくれる人、一緒にALUHI編集を通して活動してくれる人との関係創出はできてはいるものの、深度で測るにはこれからの取り組みによって明らかになっていくものと考えている。
- 課題・・・「えんたく」の設立から実働までの限られた時間の中では、深化を図るには少し厳しさを感じた。次年度は企画段階から地域の人たちと考える場と時間をつくっていく。そこからプロジェクトを支えていくための「えんたく」と地域に力を貸してくれる人や団体との交流を持つことで、地域の人と掲げた目的に向かって地域振興を実現していく。

●事業の遂行体制・役割分担での成果・課題

- 成果・・・創発コミュニティ「えんたく」の設立
- 広いコミュニティ形成を図ろうとしたものの、期間と人員が不足していた。今年度はスタートメンバーによる地域資源のヒアリング調査やフィールドワークに多くの労力を割いたため、地域への浸透が一部にとどまってしまい、メンバー拡大が思うように進まなかった。今後メンバーを新たに加えていく必要がある。

８.今後に向けて

●継続的な体制づくりの成果・課題

- 活動拠点の確保・・・関係人口との双方向の情報交流や現地交流を継続的に実施していくための拠点が必要。これについては2020年度末で廃校となる冠岳小学校の活用が検討できるため、地域と協議していく必要がある。
- 体制の拡充・・・今年「えんたく」が形成されたが、現在は、元地域おこし協力隊をはじめとする外部人材が活動の中心にいる。時間をかけ、地域における活動の理解を図り、地域人材をメンバーに加えていく必要がある。ただ、活動の広がりの中で当初想定していなかった地域人材が活動に加わるなど、今後の可能性を感じることもあった。
- 事業資金の確保・・・地域素材から薬膳弁当やツーリズムを企画し、テスト販売したが、地域の相場からはかなり高いにも関わらず完売するのもあり、地域資源からしっかりとしたものを作り、稼ぐ手法のテストは実施できた。

●その他の成果・課題等

- 関係の創出・・・活動を知り、県外から出身者だという声を受けることもあり、地元への取組に興味を示している人へのアプローチに期待がもてた。一方で、地元を離れた人が情報を得るには広範囲でのアプローチが必要になるが、常に活動情報が確認できる場所または媒体の必要性も感じた。
- 関係の深化・継続・・・関係の深化はこれから図っていくが、相手との距離感を間違えないようにしていきたい。また、活動中、地域から声をかけてもらい参加する集会や時間が持て、また地域が「えんたく」を知りたいと地区の勉強会に招いてくださったことは、地域の関心の高まりが感じらるうれしい出来事だった。

自由意見、アピール等

「えんたく」は、来年度以降も引き続き冠嶽の山麓で活動していきます。地域映画づくりや小学校跡地の活用をとおして、地域と関係人口が心地よくチャレンジできる冠嶽芸術文化村の実現を目指していきます。